

bind 9への移行ガイド(初級編)

2005/05/21
神保道夫
karl@jp.freebsd.org

きっかけ

- FreeBSD 5.3-RELEASEから、bindが8 → 9になったことにより、設定・運用が微妙に変わった。
- ここでは、FreeBSDでの運用方法のtipsを紹介する。

/etc/namedb ディレクトリ

- /etc/namedb が、/var/namedb/etc/namedbの symbolic linkに変更され、/var/namedbが chrootディレクトリしやすくなった。

namedの起動・終了

- FreeBSDでは、/etc/rc.d/named startで起動、/etc/rc.d/named stopで終了する。
- ただし、/etc/rc.confでnamedの起動パラメータが正しく指定されていれば有効になる。

rndcコマンドとの協調

- rndcとは、remote name daemon controllerの略で、リモートサーバーからnamedを制御するコマンドです。FreeBSDのnamedを起動し、named.confにcontrolsステートメントがなく、rndc.confファイルがない場合は、localhostのnamedを制御することが可能です。

rndcの利用例

- namedを再起動せずにゾーンデータを変更する
rndc reload domain-of-zone
- namedを再起動せずにゾーンを追加・削除する
rndc reconfig

digコマンド

- dig(domain information groper)コマンドは、従来のnslookupコマンドの代わりとして推奨されているコマンドです。
- dig @ 127.0.0.1 a www.example.co.jp
localhostのnamedに対して、www.example.co.jpのAレコードを検索する
- dig @ 127.0.0.1 -x 192.168.0.1
localhostのnamedに対して、192.168.0.1のPTRレコードを検索する

まとめ・参考文献等

- named が8 9になって、若干構文が変わったりしたコマンドもあるが、named 4 8への変更よりも少ないため、覚えるのは比較的簡単です。
- 詳しくは、DNS&BIND クックブックや、DNS&BIND 第4版をご覧ください。